

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	共立印刷株式会社 本庄第4工場	階数	地上2階
建設地	埼玉県本庄市いまい台2丁目74番	構造	S造
用途地域	工業専用地域 防火指定無し	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,040時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023.07.31 予定	評価の実施日	2022年10月11日
敷地面積	5,335 m ²	作成者	榊澤 裕太
建築面積	2,649 m ²	確認日	2022年10月11日
延床面積	2,866 m ²	確認者	榊澤 裕太



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合	敷地の外周部には緩衝体として緑地を設置し、建物配置は近隣側を避けて影響のないように配慮した。敷地内出入口は既存ゲートを再利用とし、今回建替えによる周辺道路環境への影響が出ない計画とした。	
Q1 室内環境	事務室には窓を多く設け明るい空間とした。2階の居室には吸音効果のあるソーラトンと吸音材の設置による騒音の抑制を図った。	敷地内通路は十分な幅員を確保する事で、原料の搬入・製品の搬出が重なったとしても、同時に作業できる計画とした。舗装に半たわみ舗装を採用する事で轍等発生抑制、As舗装に比べ地表温度の低減に配慮した。既存建物とほ
Q2 サービス性能		
Q3 室外環境 (敷地内)		
LR1 エネルギー	モデル建物法において、一次エネルギー消費量 BEI _m = 0.77の結果であり、1.00未満を達成している。屋根は馳形折板 重ね工法t=0.6+0.8とし、2階となる部屋には天井を設け、断熱材を敷設する。また外壁にはALC100mmを採用し、外部の温熱影響を避けるように計画した。	西側隣地に緑地がある為、敷地内西側緑地を広めにとることで、西側緑地を一体的に見せ、緑地の効果(騒音・振動の吸収、防風・防塵)を高める計画とした。敷地内車道に十分な幅を確保することでスムーズな車両の出入を可能とし、出入口となる道路に車両出入時の影響が少なくなるよ
LR2 資源・マテリアル		
LR3 敷地外環境		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
共立印刷株式会社 本庄第4工場

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境			0.31		-				2.7
1 音環境		3.0	0.15		-				3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		-				
1.2 遮音		3.0	0.40		-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-		-				
1.3 吸音		3.0	0.20		-				
2 温熱環境		1.9	0.35		-				1.9
2.1 室温制御		1.7	0.50		-				
1 室温		1.0	0.38		-				
2 外皮性能		1.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-				
2.3 空調方式		3.0	0.30		-				
3 光・視環境		3.3	0.25		-				3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30		-				
1 昼光率	事務室には十分な採光が取れる開口を設けた。	5.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		3.0				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-				
1 昼光制御		3.0	1.00		-				
3.3 照度		3.0	0.15		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境		3.2	0.25		-				3.2
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-				
1 化学汚染物質	仕上げに関してはほぼ告示対象外建材、またはF4材を使用。	4.0	1.00		-				
4.2 換気		3.3	0.30		-				
1 換気量	基準法の必要換気量の1.2倍を確保している。	4.0	0.33		-				
2 自然換気性能		3.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		1.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視		-	-		-				
2 喫煙の制御		1.0	1.00		-				
Q2 サービス性能		-	0.30		-				3.1
1 機能性		3.2	0.40		-				3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30		-				
1 広さ感・景観	居室となる部屋は全て2.7m以上天井高を確保している。	4.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	休憩室の他に食堂を設け、十分なスペースを確保している。	5.0	0.33		-				
3 内装計画		1.0	0.33		-				
1.3 維持管理		3.5	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	外壁及び外部巾木に弾性塗装を施しクラックの発生抑制を行う。	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30		-				2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		-	-		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	-		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.17		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.17		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.33		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.33		-				
2.4 信頼性		2.4	0.20		-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20		-				

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	事務室等部分は階高3.7m以上確保している。	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.078	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.77	3.3	0.63	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		節水型便器を採用。	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		岩綿吸音板(ソーラトン)・長尺塩ビシート・シートシャッター	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		床接着剤・壁クロスノリにて使用。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材未使用。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルコストCO2排出率87%。	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器不使用	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告照明無し。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート






■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	共立印刷株式会社 本庄第4工場	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.5	+	2.6	=	6.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.5
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.5
敷地内車路を半たわみ舗装とする事で、表面をコンクリート色とし路面の温度上昇を抑えている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
敷地内外周部に緑地を極力設け、緩衝体とするとともに、西側隣地の緑地と一体となるように西側緑地の幅を広めに確保している。			

: 入力欄